

# 救缶鳥通信 2024年2月6日(火)

## 黒磯中学生が「パンの缶詰」に『温かいメッセージ』

石川県・能登半島地震から5週間がたちました。被災地では懸命な復興作業が続けられていますが、石川県内では今なお1万4000人ほどが避難所で不自由な生活を送っております。その被災した人たちを励まそうと、那須塩原市立黒磯中学校3年の生徒たちは5日、備蓄用の「パンの缶詰」を製造販売している「株式会社パン・アキモト」の呼びかけに応じて、ラベルに思い思いのメッセージを書き、1缶ずつ丁寧に貼っておりました。同中のこのような被災地支援の取り組みは、先月11日に続いて2回目。



この日は3年1、2組の生徒約60人が「道徳」の時間を利用して取り組みました。パン・アキモトが備蓄用に販売し、協力を得て回収した賞味期限が残っている缶詰（救缶鳥）を使用しました。

「1日も早く笑顔を取り戻してください」「このパンはすごくおいしいので、食べて元気を出してください」「今を乗り越えて、その先にある幸せを必ずみんなでつかみ取り、笑顔で暮らせる日を

つかみ取りましょう」「来年の元日は、みんなで笑い合って、『おめでとうございます』と言えるように頑張ってください」……。教室には、2011年3月11日に発生した東日本大震災の時のNHK復興ソング「花は咲く」が静かに流れていました。

この様子は、NHK宇都宮放送局が取材し、5日夕方の「とちぎ630」で放映されました。

黒磯中学校生徒による被災者を励ますメッセージ付き「パンの缶詰」は、同様の取り組みをしていただいた那須塩原市立大原間、波立の両小学校、東那須野中学校の皆さんの分も含め、「被災者支援」第11便として計9045缶が、石川県津幡町にある日本国際飢餓対策機構の現地本部に送られました。また、この便には大田原市の「奈良スポーツ」から託されたTシャツ400枚、タオル1200枚も一緒に送られました。



今回の便を含め、パン・アキモトによる能登半島地震の被災された人たちへ送られた「パンの缶詰」は、合計1万8201缶となりました。また、能登被災者支援金の総額は約126万円になりました。

私たちは、引き続き被災した人たちに寄り添った活動を続けていくつもりです。皆様の温かいご支援をお願いいたします。